

【クラウド方式でのデジタル地域資料の公開とオープン化の一提案】

【長塚 隆】(所属: 鶴見大学 名誉教授)

【発表内容】

近年、郷土史・地域史や、市町村勢要覧、市町村広報誌などを含む地域資料はデジタルで公開されることが多くなっているが、具体的にどの程度デジタル化され、どのように公開され、どのような問題点があるのかは充分把握できていない[1-3]. 神奈川県を対象に市町村史、市町村勢要覧、市町村広報誌など市町村ごとに発行される地域資料のデジタル化とオープン化の現状を国立国会図書館デジタルコレクション、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業 (WARP)、および神奈川県立図書館横断検索、各市ホームページや図書館 OPAC により該当資料のメタデータおよび原資料のデジタル化とオープン化を調査し、当該地域資料のデジタル化とオープン化の現状を明らかにした[4-6]. デジタル化された地域資料で公開が不十分なものが多いことが明らかになった. 今回、地域資料の公開とオープン化を促進するための方策として、各自治体の公共図書館や文書館などがデジタル地域資料を搭載できる全国規模でのクラウド方式のポータル構築を提案する.

[1] Nagatsuka, Takashi and Ishikawa, Tetsuya: " A Progress on the Digital Collections of Local History at the Public Libraries and Other Memory Institutions in Japan" , IFLA WLIC 2017

[2] Nagatsuka, Takashi: " The Relationships and Linkages among the Digital Collections at Libraries in Japan. Paper presented at: IFLA WLIC 2018

[3] Nagatsuka, Takashi: " Digital Collaboration: Linkages among Local History Collections in Japan" , IFLA WLIC 2019

[4] 長塚 隆, 地域資料のデジタル化の進展を NDL Search や Japan Search などの検索ポータルから推測, 情報知識学会誌, 2019, 29 巻, 4 号, p. 340-343.

[5] 長塚 隆, 自治体史等の地域資料のデジタル化・オープン化の進展状況 -神奈川県政令指定都市の事例から-, 情報知識学会誌, 2020, 30 巻, 2 号, p. 155-162.

[6] 長塚 隆, 自治体史等の地域資料のデジタル化・オープン化の進展状況 -神奈川県全市の事例から-, 情報知識学会誌, 2020, 30 巻, 4 号, p. 447-454.